

一番多いのは六十万円、一番少ないので四万円。今にもそのために留萌町が破産するといふんです。

留萌の実態からいけば、なにも破産しない。税金をとって払う必要はない。条件が課税収入によらず、別の方法で返済すると決めていたのですから、一般会計の課税収入で払う必要はなかったんです。

財源的にも心配がなかったんで、少しも重荷ではな

い。ただ、表面上は返してないから、どうしても……その当時、年に一、二度町長が上京して言いわけに行つたんですが、その時が留萌町として一番苦しかったですね。(一同、同感の表情)

町債があるところは、起債はだめだといふんですから仕事にならんです。これが一番つらかった。

「福田さん」当時、家でふだんダウンヤ着ている連中が東京に行くというので、洋服をはじめて作つたんです。(笑い)

さあ、Yシャツや服を反対に着てみたり、ネクタイのしめ方も知らないんだから。(大笑い)

政友会も憲政会も、挙町一致で政友会に入るといふ条件で会つたわけですから、まあ話はわかつたと。当時の原内閣の書記官長高橋光成氏に話をし、保険会社に橋わたしをしてくれたという裏話があった

んです。

「笹島さん」わたしら一番苦しかったのは、明治二十九年藤山農場第一回の入植ですがなしろ、大木が山地どうよう。熊笹が身を没する八尺も生い繁っている所で、小屋を建て、笹を刈り、木を切り倒して開墾をはじめましたが、笹の根を集めて焼いた苦勞が今でも思い出します。

当時、農場主(注：小樽の藤山要吉)から受けるのは、入植後四年間に限って米一人年五升ぐらいと味噌正油などでしたから、体を悪くした時でなければ米は食べられませんでした。主食となるのは、麦、いなぎび、いもなどでした。

「原田さん」わたしが二十二才の時、家の経営を建てなおすため、三年間は個人の交際などいっさいしないと決めてお金を貯めました。今の時代から見ると風変わりなものでした。

三年たつて二十五才の時やつと親の借金を返し、お金が少し残つたので、さらに三年間続けようと、二十八才までやつたんです。

それで当時のお金で六千円を持つたんで、雑穀屋を始めた。ところが、三十三才の時また、カマドを根こそぎひっくり返しちやつたんです。(笑い)

「伊藤さん」若いものは環境や教育が違うので、われわれとはズレがあると思えますが、青少年の育成が呼ばれているのに……この間、映画へ行きました。タダの映画でしたから、子どもから青年まで一杯行っていました。

たんです。

ちようど、材木が時代の流れにのつてもうけました今の若い人も、もう少し昔のような根性をもつて欲しいと思ひますね。

《青少年の非行》

昔はカタギに手は出さぬ

「伊藤さん」若いものは環境や教育が違うので、われわれとはズレがあると思えますが、青少年の育成が呼ばれているのに……この間、映画へ行きました。

「伊藤さん」若いものは環境や教育が違うので、われわれとはズレがあると思えますが、青少年の育成が呼ばれているのに……この間、映画へ行きました。

「伊藤さん」若いものは環境や教育が違うので、われわれとはズレがあると思えますが、青少年の育成が呼ばれているのに……この間、映画へ行きました。

中学生なのに人にいんねんをつけたり、暴力団のまねをしたり……

昔だって暴力団はありましたが。八間道路の坂は、紅灯街でバクチ打ちの巢でしたよ。

白昼けんかしたもんで、でも、かたぎの人には手を出さなかつた。いまはそうじゃないんです。誰かれの区別なく被害を与える。それだけ違ふんです。

「司会者」女の人の幸福な時代になつてますか。(五十嵐さん)「いまの嫁さんはしあわせだと思ひますね。」

わたしらの時とは違つて姑も理解ありますね。昔は姑の掃らぬうちは、起きてストーブをたき、雪をかいて、何時でも待ってなければならなかつたんです。

今では、姑の方で遅くなる時は、寝ていてもよいですよ。嫁さんの体が悪くなつて困るのは姑の方です。すからねといふわけですよ。

偉かつた先覚者たち

《司会者》人物の思い出について……

「福田さん」昔の人たちはよくやつたね。鳥海さんとか留萌の草分けの人が多

「伊藤さん」五十嵐さんはね、留萌鉄道を作るために足かけ三年ですわ。先生(五十嵐さん)八幡館(東京で)に泊つていた五十嵐さんの高い旅館だ

《留萌の父—五十嵐さん》

自費で留萌に夢かける

「五十嵐さん」明治二十四年の暮に、綱治(五十嵐)と佐賀庄五郎、伊山戸長(注：伊山徳太郎、七代戸長。明治二十三年から二十五年まで)の三人で、あきあじを持つて、第二回帝國議會に留萌の築港運動に行つたんですが、夜には国会議員を呼んで料亭で接待したんです。

その時には計画図が出来ていたんですが、それより前に、外国人を留萌に連れて来て(注：明治二十年夏C・S・マーク)港や鉄道の作れる所かどうか見てもらつたといふんです。そうしたら、出来るといふんで、運動をはじめたといふんです。ですから、道楽でやつた仕事ではなかつたんです。五十嵐綱治が皆お金出したんですから。本当に、帳場などは借金とりでひどかつたんです。

わたしね、オジさん、いつも旅へ出ているから、家の中はどうですかといふたんです。そうすると、築港、鉄道は出来たけれど、こ、から産物を出さなければ、仏作つて魂入れないと同じなんだ。だからこれから東京へ出て産物を出すように話をつけてくるんだといふんです。

「伊藤さん」それではお話はつきませんがこのへんでむすびにしたいと思ひます。いままで聞かれなかつたことをいろいろお話ししていただきまして市民の皆さんも興ぶかくこれを読まれるだろうと思ひます。長時間まことにありがたうございました。

写真は現在の中央大通り

